

定例記者会見資料  
令和6年10月31日  
総務部秘書課

## 令和6年『田辺市文化賞』の決定について

田辺市では、昭和45年に創設した「田辺市文化賞」の制度を継承し、毎年、この時期に市の文化（学術、芸術、体育、生活文化等）の発展に貢献された方に本賞を贈り、その功績を称えております。

創設から55回目を迎えた本年は、古から続く山路紙の製作技術を復活させるとともに伝統を守りつつ和紙芸術へと昇華させるなど和紙文化の普及と発展に寄与された**奥野佳世様**と**奥野誠様**のお二方に本賞をお贈りすることといたしました。

なお、お二方の住所、贈呈式の日時等につきましては下記のとおりです。

### 記

#### 【受賞者】

おくの かよ  
**奥野 佳世氏** (73歳) [和紙作家]  
(田辺市龍神村東)

おくの まこと  
**奥野 誠氏** (71歳) [和紙作家]  
(田辺市龍神村東)

※功績等については別紙のとおりです。

#### 【贈呈式】

日時：令和6年11月20日（水）午後1時30分～  
場所：田辺市役所 5階 庁議室



おくの かよ  
奥野 佳世 氏

生 年 昭和26年  
住 所 田辺市龍神村東

昭和26年、大阪市に生まれる。昭和50年、武蔵野美術大学を卒業後、大阪の公立中学校や高等学校にて美術指導を行いながら、画家として活動を始める。

氏自身、「山奥の空気と水の美しい自然に囲まれた芸術村に住んで創作活動をする」というイメージを思い描いていたところ、昭和58年、龍神村で廃校舎の活用と芸術による村おこしを目的とした龍神国際芸術村が開村した。そして、その後、氏の個展に来場した芸術村村長から誘いを受け、芸術による村おこしに魅かれて移住を決断、昭和59年に職を辞して家族で大阪から龍神村に移り住み、龍神国際芸術村の運営に携わることとなる。

移住から程なくして、龍神村には「山路紙」と呼ばれる和紙作りの文化があり、古くから紙漉きが行われ、山村の暮らしと共にさまざまな用途に使われていた事を知り、伝統ある山路紙を復活させたいと決意し、活動を開始した。

幸い、地元には紙の原料である楮<sup>こうぞ</sup>の生産農家が残っており、紙漉きの方法や、紙漉き道具などについて、先人から教わり、やがて、自ら紙漉きを実践して山路紙を復活させ、さらには、草木染による創作活動を開始し、和紙を用いた表現へと発展させ、その活動は現在に至る。

氏の主な活動は山路紙の草木染で、自然の染料で鮮やかな色の紙を作り上げていく。用いる染料は、コブナグサ、アカメガシワなど天然のものを採取し、また、タデアイ、アカネなどの植物のほか、時には土を混ぜたりするなど、「自然の恵みでどれだけ色彩豊かな表現ができるか、どれだけ一体になれるか」を心掛け、古くからの方法に学び、自然に向き合った創作活動を大切にしてきた。

平成4年から取り組んでいる地元小学校での6年生の卒業証書作りの指導は、これまで31回を数えるなど、長年にわたり地元小学校が地域学習や森林学習の一環として実施している授業の講師を務め、和紙作りの工程や紙の歴史のみならず、楮の収穫などから循環型社会のあり方を伝えるとともに、山村の自然・文化や森林の働き、暮らしの安全と豊かさに深いつながりのある森づくりの大切さを子供たちに伝えている。この取組が評価され、令和3年には地元小学校が和歌山県から優れた環境保全活動をしている団体として「わかやま環境賞」を受賞するなど、地域に根ざ

した取組は着実に実を結んでいる。

平成24年には公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団から助成を受け、平安時代の宮廷の女性たちが用い愛でた草木染手漉き和紙をテーマに研究を行うなど、創作技術の向上に邁進するとともに、平成30年には中国上海市のギャラリーにおいて二人展を開催するなど、氏の作品は海外でも注目されている。

このほか、氏は自然素材を使ったものづくりをコンセプトに、「手づくりクラブ」や「糸つむぎの会」を設立し、環境に配慮した暮らしの提案を行う活動を続けており、日本の在来種「和綿」の種の保全活動や、廃油を使ったせっけん作りなど、地域に根付いた持続可能な循環型の地域づくりにも尽力している。

人と人とのつながりを大切にしてきた氏の活動は、その後、多くの人が龍神村に移住するきっかけとなるとともに、都市部からの移住を経て山路紙を復活させ、さらに和紙芸術へと発展させるなど、長きにわたり和紙文化の普及と発展に努めてきた氏の功績は誠に多大である。

#### (略 歴)

昭和26年 大阪市生まれ  
昭和59年 大阪府東大阪市から日高郡龍神村（現田辺市龍神村）に転入

#### (学 歴)

昭和50年 武蔵野美術大学造形学部美術学科油絵専攻卒業

#### (主な活動等)

昭和59年 アートスペース虹（京都市）において個展を開催、来場した龍神国際芸術村村長 嶋本昭三氏から活動への誘いを受ける  
龍神村に移住、龍神国際芸術村アートセンターにおいて村おこしの活動を開始 紙漉き、草木染による創作活動を始め、以降、紙漉きワークショップ・展覧会を各地で開催、現在に至る  
龍神村内で絵画教室を開催、現在に至る  
平成4年～ 地元小学校6年生の卒業証書作りを指導、現在に至る  
平成18年～ 和歌山大学紀南サテライト授業「現代社会と紙漉き」開講（～平成19年）  
平成24年 公益財団法人ポーラ伝統文化振興財団の助成を受けて、「雁皮、楮による草木染手漉き和紙薄様の研究製作」を行う（～平成26年）  
平成30年 二人展（中国 上海市）を開催

#### (役職等)

平成12年～ 龍神村アートセンター「糸つむぎの会」代表  
平成19年～ 田辺市龍神公民館東西分館 分館長（～令和5年）

#### (受賞歴)

平成29年 田辺市社会教育功労者表彰（分館長勤続10年）  
近畿公民館連絡協議会優良職員表彰（分館長勤続10年）  
令和5年 田辺市市政功労者表彰（教育功労）



おくの まこと  
奥野 誠 氏

生 年 昭和28年

住 所 田辺市龍神村東

昭和28年、和歌山市に生まれる。昭和50年、武蔵野美術大学を卒業後、大阪で美術専門学校の講師を務めながらアトリエを構えて美術造形作家として活動を始める。

昭和58年、龍神村で廃校舎の活用と芸術による村おこしを目的とした龍神国際芸術村が開村し、その取組に興味を感じていたところ、芸術村村長から誘いを受け、その構想に魅かれて移住を決断、昭和59年、職を辞し、家族で大阪から龍神村に移り住み、龍神国際芸術村の運営に携わることとなる。

氏は、「山村文化の掘り起こし」を活動の柱の一つに位置付けて活動する中で、龍神村ではかつて紙が漉かれていたが、戦後まもなく途絶えてしまったということを、龍神村の村誌編纂草稿から知り、「山路紙」という紙漉きにたどり着いた。

山路紙は、古くから龍神村で漉かれ、地域の主要な産物の一つであったが、洋紙の普及とともに、紙漉きの伝統は途絶えていた。しかし、日高川上流域は楮の産地でもあり、原料となる楮の生産農家が残っていたことから、その楮を原料とする山路紙の復活に向けて、かつて紙漉きをしていた職人や村人に話を聞き、原料や道具、漉き方等について研究を重ねていく中で、紙漉きが徐々に氏の創作活動の中心となっていき、素朴で力強さを特徴とする山路紙を復活させるに至った。

楮は、古くから紙原料として栽培され、日本の文化を支えてきた植物であり、毎年冬に、その年に伸びた枝を刈り取り、蒸して剥いだ樹皮が紙の原料となる。龍神村では、これを乾燥させて出荷していた。紙漉きは、表皮を取り除いた後、水と太陽でさらし、灰汁で煮る。そうして柔らかくなったものを、叩いて細かくし、紙漉き槽に入れて漉き上げ、絞り、板に干す、これらすべての工程を手作業で行う。

氏が、平成4年から取り組んでいる地元小学校6年生の卒業証書作りの指導は31回を数え、また、一般の人々を対象とした紙漉き体験教室を開くなど、長きにわたり和紙文化の伝承・普及に努めている。

平成21年から、「田辺市龍神山路紙保存伝承施設」の運営を開始し、原料の採取に始まる製作の全工程を昔ながらの技法で行い、匠として技術の向上に努めながら、紙漉きだけでなく、原料の楮の特性を生かした様々な芸術作品を制作し、展覧会で発表した作品が高い評価を受けるなど、山路紙の魅力を広く伝えている。

平成22年には公益財団法人全国税理士共栄会文化財団から伝統工芸技術分野における助成を受けるとともに、平成23年には「全国手漉き和紙青年の集い和歌山大会」を主催するなど、和紙文化の発展に尽力する。

このほか、平成30年には中国上海市のギャラリーにおいて二人展を開催するなど、氏の作品は海外でも注目されている。

地域や人との関わりを大切にしてきた氏の活動は、その後、多くの人が龍神村へ移住する礎となり、平成16年から平成18年にアトリエ付きの住宅が芸術家向けとして龍神村内に建てられるきっかけとなったほか、都市部からの移住を経て、山路紙を復活させ、平成28年には「紙漉き」で和歌山県名匠表彰を受けるなど、長きにわたり和紙文化の普及と発展に努めてきた氏の功績は誠に多大である。

#### (略 歴)

昭和28年 和歌山市生まれ  
昭和59年 大阪府東大阪市から日高郡龍神村（現田辺市龍神村）に転入

#### (学 歴)

昭和50年 武蔵野美術大学造形学部美術学科油絵専攻卒業

#### (主な活動等)

昭和59年 龍神国際芸術村アートセンターへ移住、その運営に携わる  
紙漉きとその技法による作品の制作を開始し、以降、紙漉きワークショップ・展覧会を各地で開催、現在に至る

昭和63年 龍神国際芸術村開村5周年記念芸術祭を企画、開催

平成4年～ 地元小学校6年生の卒業証書作りを指導、現在に至る

平成17年～ 龍神村民文化祭実行委員長として村民文化祭の開催に携わり、現在に至る

平成18年～ 和歌山大学紀南サテライト授業「現代社会と紙漉き」開講（～平成19年）

平成21年 田辺市龍神山路紙保存伝承施設の運営を開始

平成22年 公益財団法人全国税理士共栄会文化財団から伝統工芸技術分野における助成を受け、和紙文化の振興に取り組む

平成23年 全国手漉き和紙青年の集い和歌山大会を龍神村内において開催

平成25年 龍神国際芸術村開村30周年記念芸術祭「Art in 龍神村」を開催

平成29年 名匠表彰受賞記念展（和歌山県民文化会館・和歌山市）、奥野誠紙の世界展（紀南文化会館・田辺市）を開催

平成30年 二人展（中国 上海市）を開催

#### (役職等)

平成17年～ 龍神村文化協会会長

#### (受賞歴)

平成28年 和歌山県名匠表彰（和歌山県）

## 受賞者コメント

奥野佳世

田辺市文化賞受賞の連絡を頂いた時、驚きと戸惑いと共に感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして、長年活動を共にしてきた夫（奥野 誠）と同時に、一個人として評価していただいたことも大変有難く、二重の喜びとなりました。

まだ田舎暮らしも珍しい頃の、定住第一号としての龍神村への移住でしたが、40年目にこのような栄誉ある賞を頂くことになるとは、夢にも思っておりませんでした。

人々が豊かな自然に包まれ暮らしながら、長い年月にわたり伝え続けてきた文化に秘められたメッセージを、未来に伝える役目を果せるよう、さらに精進してまいりたいと思います。これまで支えて下さったすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。

## 受賞者コメント

奥野 誠

紙を漉き始めてからちょうど四十年になります。この節目の年に、このような素晴らしい賞を頂けるということは、大変嬉しく喜びに堪えません。そして同時に、身の引き締まる思いが致します。ありがとうございました。

これまで紙を漉いてきて、紙に教えられたことがあります。それは、先人の知恵に学ぶこと、水の技に敬意を払うこと、そして森からの恵みに感謝すること。

紙漉きを通してのこの学びは、現在を生きる私たちに与えられた課題でもあると思っています。受賞の連絡を頂いた時、思わず「私で良いのですか」と言ってしまったのですが、此度の受賞を大きな励みとして、紙の文化を次世代へ伝えていくという決意を新たに致しました。

[参考]

田辺市文化賞受賞者一覧

	年	回	氏名	活動内容	住所	備考	
1	昭和45年	第1回	故雑賀 貞次郎	地方文化	(故人)		旧田辺市
2	〃	〃	故原 勝四郎	洋画	(故人)		〃
3	〃	〃	故池永 浩	万代記解説	(故人)		〃
4	〃	〃	脇村 義太郎	経済学	(故人)		〃
5	〃	〃	高川 格	囲碁	(故人)		〃
6	〃	〃	早田 卓次	体操	東京都世田谷区		〃
7	昭和46年	第2回	廣畠 鋤和	華道	(故人)	本名 廣畠幾太郎	〃
8	昭和47年	第3回	鈴木 雄三	弓道	(故人)		〃
9	〃	〃	木村 龍平	生活文化	(故人)		〃
10	昭和48年	第4回	山崎 祥石	書道	(故人)		〃
11	〃	〃	益山 英吾	洋画	(故人)		〃
12	昭和49年	第5回	野口 民雄	地方文化	(故人)		〃
13	〃	〃	福本 鯨洋	俳句	(故人)	本名 福本清一郎	〃
14	昭和50年	第6回	森木 啓之	地方文化・邦楽	(故人)		〃
15	昭和51年	第7回	野口 利太郎	地方文化	(故人)		〃
16	〃	〃	坂東 三恵鶴	舞踊	(故人)	本名 高橋つる	〃
17	昭和52年	第8回	中嶋 明	剣道	(故人)		〃
18	〃	〃	小山 周次郎	地方文化	(故人)		〃
19	昭和53年	第9回	前野 忠道	古文書	(故人)		〃
20	〃	〃	玉井 武二	水彩画	(故人)		〃
21	昭和54年	第10回	中井 國之助	生活文化	(故人)		〃
22	〃	〃	辻村 喜一	山藍染	(故人)		〃
23	昭和55年	第11回	赤木 四郎蔵	医療・学校保健	(故人)		〃
24	〃	〃	安部 辨雄	文化財	(故人)		〃
25	昭和56年	第12回	太田 耕二郎	植物学	(故人)		〃
26	昭和57年	第13回	吉田 恒四郎	童話	(故人)		〃
27	昭和58年	第14回	真砂 久一	植物学	(故人)		〃
28	昭和59年	第15回	田ノ岡 鉄一	木版画	(故人)		〃
29	昭和60年	第16回	稗田 一穂	日本画	(故人)		〃
30	〃	〃	曾我部 玄雄	文化財・体育	(故人)		〃
31	昭和61年	第17回	故吉信 英二	社会教育	(故人)		〃
32	〃	〃	原 盾二郎	音楽	田辺市朝日ヶ丘		〃
33	昭和62年	第18回	森内 富三郎	音楽	(故人)		〃
34	昭和63年	第19回	水本 愛堂	書道	(故人)	本名 水本 清	〃
35	平成元年	第20回	辻本 亮三	生活文化	(故人)		〃
36	〃	〃	榎本 はな	生活文化	(故人)		〃



## 田辺市文化賞受賞者一覧

	年	回	氏名	活動内容	住所	備考	
37	平成2年	第21回	吉田 彌左衛門	豆本の出版	(故人)		〃
38	平成3年	第22回	神谷 幸	幼児教育	(故人)		〃
39	平成4年	第23回	南方 文枝	地方文化	(故人)		〃
40	平成5年	第24回	杉中 浩一郎	地方史の研究	(故人)		〃
41	平成6年	第25回	岡安 喜久仕	長唄	(故人)	本名 藤井朝枝	〃
42	平成7年	第26回	外山 八郎	自然保護	(故人)		〃
43	平成8年	第27回	木下 伊吉	生活文化	(故人)		〃
44	〃	〃	脇村 孝三郎	生活文化	(故人)		〃
45	平成9年	第28回	伊勢田 進	考古学	(故人)		〃
46	平成10年	第29回	後藤 伸	生物研究・自然保護	(故人)		〃
47	平成11年	第30回	恵中 三市藏	絵画	(故人)		〃
48	平成12年	第31回	坂東 昌子	舞踊	田辺市中屋敷町	本名 政井昌子	〃
49	平成13年	第32回	寄本 勝美	行政学	(故人)		〃
50	平成14年	第33回	中瀬 喜陽	地方文化	(故人)		〃
51	平成15年	第34回	故鈴木 桂一郎	地方文化	(故人)		〃
52	平成16年	第35回	中田 昌女	華道・茶道	(故人)		〃
53	〃	〃	故小森 陽太郎	社会教育・生活文化	(故人)		〃
54	〃	〃	角 莊三	音楽	田辺市秋津町		〃
55	平成17年	第36回	田上 實	絵画	(故人)		現田辺市
56	〃	〃	宇江 敏勝	作家	田辺市中辺路町野中		〃
57	平成18年	第37回	坂本 勲生	語り部	田辺市本宮町本宮		〃
58	〃	〃	清水 正治	生活文化	(故人)		〃
59	平成19年	第38回	小川 虔道	尺八奏者	(故人)	号: 令山(りょうざん)	〃
60	平成20年	第39回	森本 正男	地方史の研究	(故人)	雅号: 果無山(かむいさん)	〃
61	平成21年	第40回	眞砂 典明	生活文化	(故人)		〃
62	平成22年	第41回	潮 隆雄	染織工芸	(故人)		〃
63	平成23年	第42回	坂本 フジエ	生活文化	(故人)		〃
64	平成24年	第43回	神谷 慧	合唱指導・音楽教育	(故人)		〃
65	平成25年	第44回	玉井 済夫	生物研究・自然保護	(故人)		〃
66	〃	〃	故牛尾 武	日本画	(故人)	本名 牛尾武司	〃
67	平成26年	第45回	小板橋 淳	地方文化	(故人)		〃
68	平成27年	第46回	政井 和子	地方文化	田辺市中屋敷町		〃
69	〃	〃	古久保 健	郷土史研究	田辺市龍神村殿原		〃
70	平成28年	第47回	芝 安雄	伝統工芸	田辺市本宮町皆地	本名 芝 安男	〃
71	平成29年	第48回	酒井 滋子	生活文化・ひきこもり支援	(故人)		〃
72	〃	〃	濱岸 宏一	文化財保護	(故人)		〃
73	平成30年	第49回	故池田 千尋	地方史研究	(故人)		〃
74	令和元年	第50回	松本 濱次	伝統工芸	田辺市中辺路町野中		〃

## 田辺市文化賞受賞者一覧

	年	回	氏名	活動内容	住所	備考	
75	令和2年	第51回	五味田 聖二	合気道	田辺市稲成町		〃
76	〃	〃	多屋 朋三	地方史研究	(故人)		〃
77	令和3年	第52回	染谷 文代	読書活動の振興	田辺市上屋敷二丁目		〃
78	〃	〃	安井 理夫	小栗判官物語の研究、 伝承	西牟婁郡白浜町堅田		〃
79	令和4年	第53回	石井 和子	短歌	西牟婁郡上富田町南紀の台		〃
80	〃	〃	古守 一晶	市民活動の実践	田辺市新万		〃
81	令和5年	第54回	羽根 千恵子	民俗芸能の伝承	田辺市本宮町請川		〃
82	〃	〃	堀池 雅夫	紀州松煙墨の製作	田辺市文里一丁目		〃

※昭和45年～平成16年は旧田辺市における受賞者、平成17年以降は現在の田辺市における受賞者

旧田辺市	54
現田辺市	28
合計	82